

天文台発 ぽらりす



≪2024年8月3日発行/毎月初めに天文台職員が情報発信します≫

8月は星見月

今月は注目すべき天文現象が続きます。学生さんは夏休みの自由研究として積極的に、あるいは暑くて寝られないからという消極的な理由でも構いませんので、実際の夜空を見上げてみるのはいかがでしょうか。

★1～7日 スター・ウィーク ～星空に親しむ週間～

1人でも多くの人に星空に親しんでほしい、星空の美しさを知ってほしい……そんな想いで1995年に有志が始めたこのキャンペーンは今年で30回目になります。→ <http://www.starweek.jp>

札幌市天文台では2日(金)～4日(日)に夜間公開(20～22時)を行います。

★10日 伝統的七夕(たなばた)、スピカ食(札幌では大接近)

もともと七夕の行事は旧暦の7月7日に行われていました。現在は地域によって七夕の開催時期が異なるので、国立天文台では旧暦7月7日を「伝統的七夕」と呼んでいます。旧暦は月の満ち欠けを元にした暦なので、伝統的七夕では毎年、半月よりも少し欠けた形の月が南西の低空に輝きます。

札幌では、月没(21時頃)の少し前に、月がおとめ座の1等星スピカに大接近します。(山形～宮城県以南ではスピカが月に隠される「スピカ食」が見られます) ただし、20時00分で約10度、20時30分で約5度と高度が低いので、西南西の空が開けた場所で観望する必要があります。

★12日深夜(～13日未明) ペルセウス座流星群極大

今年のペルセウス座流星群の活動は12日23時頃に極大となると予想されています。月明かりの影響がないため、空の暗い場所では1時間あたり40個程度(12日深夜～13日未明)、また、前日11日深夜や翌日13日深夜も1時間に20個程度の流星が見られそうです。街明かりの影響がある札幌市内では見られる数は少なくなりますが、流れ星をまだ見たことがない人にはお勧めの流星群です。

★15日未明 木星と火星の大接近

実際に2つの惑星が接近するのではなく、たまたま地球から同じ方向に見えるだけですが、満月1つよりも近づく「大接近」です。今月初めに離れていた2惑星は、動きの速い火星が日ごとに少しずつ木星に近づき、この日を過ぎると離れていくように見えます。毎日変化する火星の位置を追いかけてみるのも面白いです。 (右図は15日2時の東の空)



★28日未明(27日深夜過ぎ) 木星と火星と月の接近

木星と火星は下旬になっても、比較的近い位置(おうし座)に見えています。28日未明(27日深夜過ぎ)には、その2惑星にさらに月が接近し、3つの明るい天体が競い合っ「映える」光景になります。できれば、前日と翌日(27日および29日未明)も見比べてみたいものです。

ここで紹介した天文現象は肉眼だけで十分に楽しめます。睡眠不足や夏バテに気をつけながら観望を続けたいですね。(布施 隆久)

星座早見盤の使い方

天文台の建物に入ってすぐ、奥の壁に設置されている大きな星座早見盤にお気づきでしょうか。

小学校4年生の理科で使い方を学習しますが、大人になると、アレ？どうだっけ？と忘れてしまっている方も多いですね。

今回は復習をしてみましょう。



時刻

日付

①

日付の円盤をまわして、星を見る時刻に合わせて合わせます。

②

8月10日の20時に合わせました

東西南北の方位が書いてありますが、東西が地図と反対になっていますので、頭上にかざして使います。

③

この範囲の中の星が見えます。

十天頂
(空の真上)

①は天文台の壁面の星座早見盤です。

②と③は青少年科学館で販売している星座早見盤です。札幌の緯度に合わせて作成されていますので、どうぞお求めください。(税込600円)

星座早見盤には、札幌の住宅地からは見えないような暗い星も描かれている一方、はっきり見えるのに描かれていない星もあります。(太陽・月・金星・火星・木星・土星など) これらの星は見える時期がどんどん変化しますので、星座早見盤には載せることができないのです。

※太陽の通り道である「黄道」を表示している星座早見盤もあります。

次号ではその中の「土星」について少し詳しく解説をしてみたいと思います。(横山明日香)

☆8月の夜間公開(予約は不要です。公開時間内にお越しください。)

2(金)~4(日) 20~22時 春から夏の星座

23(金)~25(日) 20~22時 土星・春から夏の星座

